

2016年10月10日
国際審判員 山田 真司
(岡山県ボート協会所属)

Asian Rowing Championships 2016 報告書

2016年9月8日～12日に中国・嘉善のFENHU WATER SPORTS CENTERで開催されたアジアボート連盟（ARF）主催のAsian Rowing Championshipsに参加しましたので、以下の通り報告致します。

1 大会概要

本大会のEvent 1にはPara-Rowingの種目もあった。

Men (9) : M1X, M2X, M2-, M4-, M4X, M8+, LM1X, LM2X, LM4-

Women (8) : W1X, W2X, W2-, W4X, W4-, LW1X, LW2X, LW4X

Para-Rowing (3) : ASM1X, ASW1X, TAM1X2X, LTAM1X4+, LTAM1X2X (3種目を1レースにて実施)

(1) 大会日程

- 9月8日 Team Managers Meeting and Draw、Jury Meeting
- 9月9日 予選(Heat)8レース、Preliminary5レース、敗復4レース
- 9月10日 予選10レース、敗復2レース
- 9月11日 FinalB2レース、FinalA12レース
- 9月12日 FinalB2レース、FinalA8レース

(2) 参加国

タイ、ウズベキスタン、韓国、日本、フィリピン、カザフスタン、ベトナム、香港、カンボジア、台湾、イラン、バングラデシュ、マカオ、イラク、シンガポール、中国、アラブ首長国連邦

2 審判体制

本大会の国際審判員（ITO）は、中国のBing LIANG 審判長を含め15名（うち女性1名）であった。中国3名、日本2名（竹内、山田）、ミャンマー1名、香港2名、タイ3名、インド2名、台湾1名、スリランカ1名である。しかし、審判長が参加できず（代理審判長は香港のMr. Kin Wah SIU）、また、NTOとしてや自国チームに帯同するなど実際は12名であった。

審判長、発艇、線審、主審4艇、判定長、監視長、出艇対峙橋、帰艇対峙橋、選手計量、以上の部署に国際審判員が1名ずつ配置された。

3 審判業務

私が経験した、日々の審判部署及びその日のトピックスを中心に報告していく。

-9月9日 Control Commission (OUT) 監視 (出艇対峙橋)

この日は1日中出艇対峙橋での監視業務であった。監視部署には対峙橋ごとにNTOとボランティアスタッフ各1名が配置されていた。英語を話せるNTOを配置してくれていたため、ボランティアの方へもNTOを通じてこちらの意図をスムーズに伝えること

ができた。今回は借艇しているクルーがほとんどだったためか、ヒールロープがなかったり、きちんと結べていなかったりするクルーが散見された。借艇の多いレースではこういった点を見逃さないようにすべきである。

・9月10日 Umpire (主審)

2日目は主審を担当することになった。ドライバーはNT0の方で、英語は話せなかったため、身振り手振りでコミュニケーションをとるようにした。Jury Meetingの際に審判長から注意があったが、IT0とNT0で同じ無線のチャンネルを使うので、ほとんど現地の言葉での通話の中に時折混じる英語(IT0のコミュニケーション)を聞き取るのはなかなか難しかった。審判長は現地の言葉が分かるために同じチャンネルを使用したのかもしれないが、やはり分けるべきではないかと思う。

・9月11日 Weighing (選手計量、舵手計量、艇計量)

重量違反となるクルーは1つもなかったが、艇計量に対象となっていないクルーがやってきた。こちらは、その時点で当該クルーが対象外であることがわからなかったため計量を実施したが、監視長へ報告した際に判明した。どうやら帰艇身橋での連絡がうまくできておらず、ボランティアスタッフが間違えたようだ。連携が非常に重要であると痛感した。また、艇計量場が表章式を行うステージの奥にあったため、計量対象クルーの帰艇と前のレースの表章式が重なってしまうと、非常に混雑してしまっただ。ここでは、ボランティアスタッフの方に主に交通整理を行ってもらい、事故の起こらないように対応できた。

・9月12日 Judge at the Start (線審)

最終日は線審部署で、Aligner (NT0) も無く、ひとりきりで業務を行った。スタートにはアグソーシステムを用いており、初めてスタートシステムを目の当たりにした。ボートホルダーも業務に慣れており、彼らを統括する役割の女性もすごく協力的であった。ボートホルダー自身もすべき事をよく理解しており、細かい指示は特に必要がなかった。

4 終わりに

国際審判となって初めての大会であった。国際審判としての経験を積むことができ、また、何より海外に友人ができたことも私にとって貴重なものとなった。いくつかのミスも経験してしまったが、これを糧にレベルアップしていきたい。

最後に、本大会に審判として派遣して下さった日本ボート協会上野審判委員長、千田国際委員長、相浦事務局長、事務局の藤田さんをはじめ関係者の皆様へ感謝し、報告書とさせていただきます。



大会本部(正面)



大会本部(コース側)



Team Managers' Meeting



Jury Meeting



出艇栈桥



コース内よりスタートを見る



艇量



艇量場



選手及び舵手計量場



線審部署



スタートエリア1



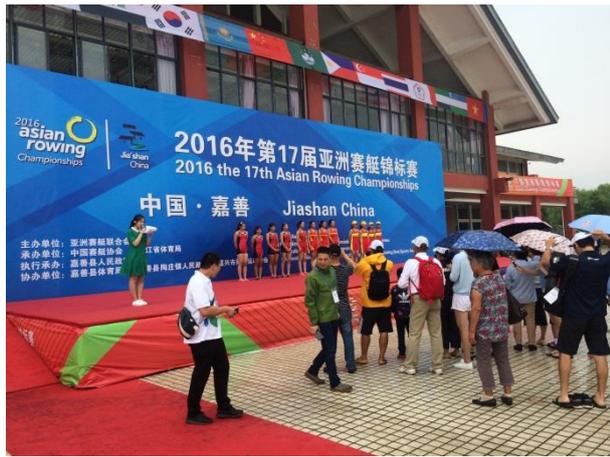
スタートエリア2



道路のサイン1



道路のサイン2



表彰式